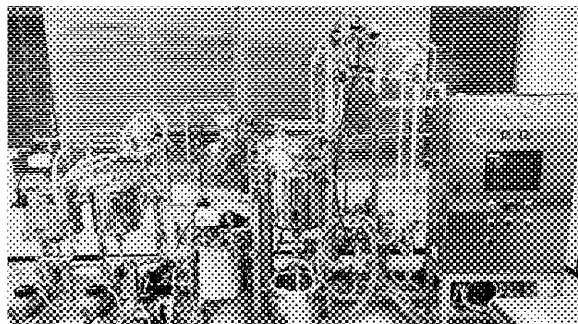


食品残さエタノールに

コスモ、静岡大新興と協業

コスモエネルギーホールディングス（HD）は静岡大学発ベンチャーと協業し、食品加工残さから安価にバイオエタノールを製造する技術を開発する。食品廃棄物の有効利用を目指して起業したS-Bridges（浜松市中央区）から残さの繊維を受け入れ、バイオエタノールの原料にする。廃棄物から有価物を抽出した後の残さを活用することで、バイオエタノールの低コスト化につなげる。

S-Bridges は茶殻やコーヒー殻、野菜・果物の皮といった非可食の食品廃棄物から、肥料やたんばく質などの有効成分を抽出できるという。出する事業を推進中。独自の湿式粉碎技術と酵素処理を組み合わせたことで、有効成分を余すことなく効率的に抽出できるとい



抽出後に残るセルロース系繊維をコスモが糖化・発酵させてエタノールを製造する。セルロースが糖化しやすい状態で得られるのも特徴の一つで、糖化やその前処理にかかるエネルギーを削減でき、経済性を高められるとい

食品廃棄物を余すことなく有効利用できるようにするS-Bridgesの抽出装置

う。コスモが残さの繊維を有償で受け入れるか無償にするかは、今後の事業性評価の中で詰める。

すでに実験室レベルで有効成分の抽出やエタノール製造に成功。今後はS-Bridges

esが複数の食品・飲料メーカーと連携し、2026年度中にも食品工場内で小型実証機による試験稼働を行う予定。コスモもこの試験由来の繊維からエタノールを製造するが「既存の技術を活用するだけで済む」（新エネルギー事業統括部）という。食品・飲料メーカーとの事業化合意を待ちつつ、早ければ27年度中の商用化と自動車用燃料などへの展開を目指す。